

| | | | |
|---------|-------------------------------|-----|------------|
| 教科名・科目名 | 英語（英語Ⅰ・英語Ⅱ・ リーディング・ライティング） | 学校名 | 京都府立桃山高等学校 |
|---------|-------------------------------|-----|------------|

1 新学習指導要領の目的について

(1) 従来の「学力」と PISA 型学力

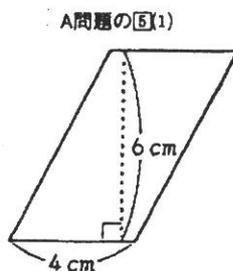
本プロジェクトは、PISA 型学力を伸長することを目的とした平成 25 年度実施の新学習指導要領に対応した指導方法の研究・実践である。PISA 型学力と従来の「学力」との違いが 2005 年の PISA での数学の分野での出題から端的に比較できる。

—従来型の出題と PISA 型の出題—

2005 年 PISA 調査出題より

A 問題：正答率 96.0%

B 問題：正答率 18.2%

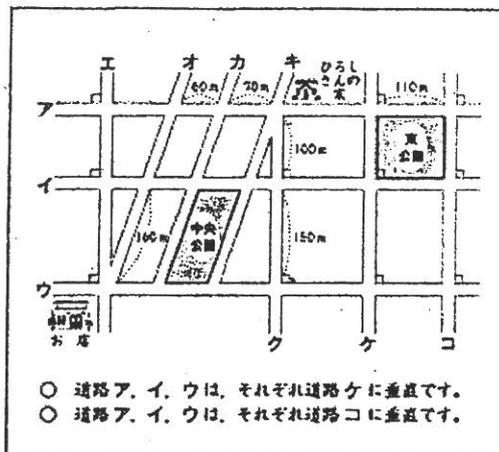


B問題の[図3]

(3) ひろしさんの家の近くに東公園があります。

東公園の面積と中央公園の面積では、どちらのほうが広いですか。

答えを書きましょう。また、そのわけを、言葉や式などを使って書きましょう。



A 問題では面積を求めるのに必要な二つの情報だけが与えられており、容易に答えを求めることができる。B 問題においては、与えられた複数の情報から必要な情報を選択して用いなければならず、さらに結論だけでなく、それに至った理由を説明することが要求されている。

しかし B 問題においても必要な知識は基本的なもののみであり、A と B との正答率の差は、知識を活用する能力や、結論を言語を用いて表現する能力の不足を裏付けている。今回の学習指導要領の改訂は、このような能力の育成も目的としている。

(2) 英語における改善点

英語においても、情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝えるコミュニケーション能力を養うことを以前にも増して強く打ち出しており、そのための課題として現行指導要領から軽視される傾向にあった文法指導の改善が狙いとされ、同時に慣用表現や指導すべき語数が現行より中高で 800 語増加され、科目構成も変更されている。

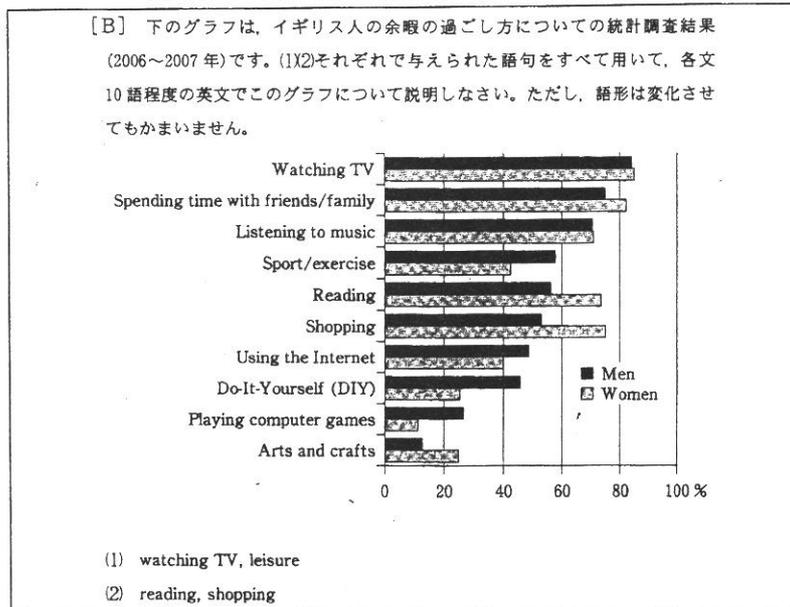
実践的コミュニケーション能力とは、レストランでメニューを注文したり、電話の応答をしたりするという決まり文句をよどみなく言えるスキルではない。読んだ文章や与えられたテーマについて、自分の意見を述べたり、内容を自分のことばで簡潔に

述べたり、それについて他者と意見交流ができる能力を指す。こういった活動を行うには当然、理解し表現するのに相当の語彙力・文法活用能力と、さらにそれらを活用して自己表現する多くの機会が必要とされる。

(3) 大学入試問題における扱い

入学生に PISA 型学力を求めるための大学入試としては、センター試験の第 4 問 B の出題形式などが例として挙げられる。2011 年では、東京大学、筑波大学、信州大学などの国公立大学二次試験、慶応義塾大学、早稲田大学、青山学院大学などの私立大学でも PISA 型「読解力」を測る設問が出題されており、今後こういった力を測る出題が増加していくことも考えられる。

出題例 (2011 年筑波大学文系前期)



2 本校での研究・実践の概要

本校は、3 年間の継続的な指導によって学力を向上させることを目標に、英語 I・英語 II・リーディング・ライティングの授業を有機的に関連させ、アドバイザーである京都外国語大学鈴木寿一教授の指導を受けて改善を重ねながら指導プログラムの開発・実践を進めてきた。

(1) 研究テーマ

情報の取り出し、書き手の意図の解釈、熟考という手順を踏んで、文章の内容を自分の言葉で表現したり、文章に基づいて自分の意見などを述べたりすることができる「読解力」を育成する。またこのような能力を高めることで同時に大学入試への実践力も伸長させる。

(2) 対象生徒群とその学習課題

普通科第 I 類文理系の平成 21 年度入学生 82 名を対象に 3 年間プロジェクトを実施した。従来の普通科第 I 類文理系における学習課題として以下の点が挙げられた。

- 1) 学習意欲はあるが、学習ストラテジーに関して暗記の域を越えることが出来ず、根拠を追究して学ぶ知的な好奇心が不足している。
- 2) 文章の内容を解釈して、自分のことばで表現したり、内容に関して自分の意見を述べたりする力、抽象的なことばの概念を理解し運用できる知識活用型の能力を育てる必要がある。

(3) 研究・指導方法

対象生徒群に関するこれらの学習課題から次の研究・実践方法を設定した。

1) リーディング教材のラウンド制指導法による「読解力」の向上

目的や質問を変えながら、文章を何度も聴解・読解させた後、多様な音読活動によって英語を内在化させる。その後、要約や内容に関する意見表現などのアウトプット活動を行う。以上のような手順のラウンド制指導法を継続的に行うことで、情報検索し、意図を解釈して、自分のことばで述べる読解力・知識活用力を身に付けさせる。この指導により、生徒が授業内で英語を「聴く」「読む」「話す」「書く」時間を最大限多くし、新指導要領での英語の大きな目的の一つを達成する。

2) 多読による「読解力」の向上

Graded Readers の多読を通して語彙力や英語特有の表現力を高める。また、テキストで読み取った情報を分析するのに活用できる幅広い知識を身に付けさせ、知的な好奇心を喚起する。

3) エッセイによる知識活用力の向上

英語 I・英語 II・リーディング・ライティングそれぞれの教科書の各レッスンのトピック、文法項目に従ったテーマを与え、ALT のモデルエッセイを参考にエッセイを書かせる。エッセイを書くことで、学習した語彙や文法表現を単なる知識から活用できるものにする。

3 ラウンド制指導法

具体的には毎レッスン以下のような教材を与え、学習活動を行った。

ラウンド制指導法は、鈴木寿一教授によって開発された外国語指導法であり、SELHi として全国的にも高い評価を受けた神戸市立葺合高等学校を始め、幅広い学力層の多くの学校で実践され、効果が実証されている指導法である。新学習指導要領では、「英語で授業をする」ことが世間で大きく扱われている。この意味は、教師が指示・解説なども含めた全てを英語で話すことではなく、生徒が英語に触れる時間を授業内で最大限多くすることである。1回の授業内で同じ教材に何度も効率的に触れさせることになるラウンド制指導法は、この目標を十分に適えることができる。

(1) ラウンド制指導法の目的

実践的コミュニケーション能力の向上が強く求められる一方、大学入試に対応できる英語力をつけることも求められる。ラウンド制指導法は、コミュニケーションのための基礎力と入試に対応できる英語力の育成の両立を狙った指導法として開発された。

(2) 指導方法の概要

ラウンド制指導法は、簡潔にまとめると「多様な方法を用いて、いろいろな角度から何度も一つの教材を学習させる指導法」で、文法・語彙の内在化と言語処理能力を向上させることができる。

授業は、テキストの各レッスンを「全体から細部へ、そして全体へ戻る」という循環形式で行う。また「理解から発表へ」が原則である。具体的な授業のおおまかな流れとしては、以下ようになる。→はそれぞれの学習活動の目的を示す。

1) レッスン全体把握 (資料①)

レッスン全体を読みながら、与えられた選択肢から各段落のタイトルを選ばせる。

→レッスン全体を通して読むことで入試レベルの長文にも対応できる集中力を養う。

→全体を最初に把握することで、本文を詳しく読む際のスキーマを活性化させる。

2) 各パート学習 (資料②③)

① 新出語の導入…ペアで単語クイズをさせる。

② 内容理解

内容質問を提示し、教師のフレーズごとのポーズ入り朗読をペースメーカーに黙読しながら、答えを検証させる。(各パラグラフごとに1回目の黙読は要点質問、2回目の黙読は詳細質問へとうつる)

→目的を持って読む習慣をつけ、「予想-検証」作業をしやすくする。

→音声を利用して文字言語の脳内での音声化を助ける。

→文法意味単位を明確に示し、チャンク間の文法的意味関係を分析しやすくする。

→ポーズによって言語処理を行う時間を保証し、言語処理スピードを向上させる。

→音声を併用して、英語の語順に従って内容を理解する訓練を行う。

③ 必要な箇所 of 文構造解説と和訳

重要構文の入っている文は解説後、多様な音読を通して定着させる。

音読方法は、Repeat、教師がフレーズ訳を言い生徒が英語を言う、パラレルリーディング、Read & Look Up など。

家庭学習として和訳と音読筆写を課し、小テストを行う。

→語彙・構文の内在化

④ 英語の Q 提示

→この後行う音読活動の際、Q の答えを探しながら読むことを目的として、先に提示しておく。

⑤ 多様な音読活動

パラレルリーディング、cloze 方式になったテキストでパラレルリーディング、シャドウイング、通訳方式など。

→語彙・構文の内在化

⑥ 英語の Q&A (資料④)

再生活動としてペアで Q&A をさせ、出来を記録させる。

事実を問う質問だけでなく、推測や自分の意見を求める Q も含める。

生徒に各自質問を準備させる機会も作る。

→語彙・構文の内在化

→相手に質問することができるコミュニケーション能力の育成

3) 本文英訳プリント (資料⑤)

多様な音読活動後、和訳をつけレッスン全体の重要語彙・構文を穴空きにした学習プリントを与える。

4) 本文のサマリー作成や内容に関する意見表現・発表 (資料⑥⑦)

本文を自分のことばで要約することで、学習した知識を活用させる。

(3) 指導法の効果を裏付ける先行研究

それぞれの学習活動における効果を裏付ける先行研究として、以下のことが鈴木寿一教授及び中・高教員の授業実践で行われた実験から有意差をもって証明されている。

- 1) 英文にスラッシュを入れて長期間指導すると、スラッシュなしの英文で指導するよりも、リーディング力が伸びる。*④
- 2) 朗読をペースメーカーに黙読させる方が、黙読のみよりも、理解を伴ったリーディングスピードが向上する。*⑤
- 3) 5～7音節ごとにポーズを挿入して聞かせると聴解度が最も高くなる。*⑥
- 4) 句や節単位に最低 1000ms 以上のポーズが必要である。*⑦
- 5) ポーズ入り教材を n 回聴させる方が、ポーズなし教材を n+1 回聞かせるよりも理解度が高くなる。
→聴解度は、外国語を聴いている時間の長さではなく、言語処理の質で決まると言える。*⑧
- 6) ポーズ入りの朗読を聴きながらスラッシュ入り英文を黙読して意味理解をすると、ポーズ入りの朗読を聴いてスラッシュを自分で入れながら意味理解するより理解度が高い。*⑨
- 7) 長期間、句や節単位にポーズを入れて教材を提示する方が、ポーズなしで朗読するよりも早くリスニング力と理解を伴ったリーディングスピードが向上する。*⑩
- 8) 意味理解後、大量に音読指導を行うと、リスニング力と理解を伴ったリーディングスピードが向上する。*⑪
- 9) 大量の音読や暗唱指導は、音読を課さない場合よりも作文力が向上する。*⑫
- 10) 大量に音読指導を行うと、センター試験や記述式テストの対策としても効果を発揮する。*⑬

4 多読指導

自分のレベルに合う興味を持てる本を選んで、自分のペースで多く読み進めることで、意欲を高めながら語彙力・速読力を伸ばさせることが目的である。他の類系、学年でも学習活動の一つとして多く利用されている。

(1) 本の選定基準

ストーリーを独力で理解して楽しみながら読め、もう一冊読んでみようという意欲

を継続できるレベルのものという基準で選定した。図書館蔵書として以下に挙げる Graded Readers 475 冊を購入した。

1) Oxford Graded Readers

・ Book Worms Series

Starter . . . 24 冊

Stage1 . . . 28 冊

Stage2 . . . 32 冊

Stage3 . . . 32 冊

・ Reading Tree (Stage5~Stage9) . . . 88 冊

・ Reading Tree Wolf Hill (Stage1~Stage5) . . . 36 冊

・ Classic Tales . . . 26 冊

・ Ian Beck's Classic Stories . . . 10 冊

2) Penguin Readers

・ Penguin Young Readers (Level1~Level4) . . . 71 冊

・ Penguin Readers Series (Easystarts) . . . 22 冊

・ Penguin Readers Series (Level1) . . . 24 冊

3) Mcmillan Readers

・ Starter . . . 15 冊

・ Beginner . . . 33 冊

・ Elementary . . . 34 冊

(2) 方法

プロジェクト対象クラスは、リーディングマラソンという形でページ数を競うグラフをクラス掲示した。生徒は 1 冊読むごとにあらすじとコメント、ページ数を書いた Reading Guide を提出し、10 ページ 1 枚で教師が与えるシールをグラフに貼っていく。学力に関係なく他人と競うことができるので、生徒たちはグラフを意識しながら、自主的に読み進めた。

また、Reading Guide を随時印刷配布することによって、生徒が次に読む本を選ぶ際の参考にさせた。

5 エッセイ指導

(1) ライティングにおけるエッセイ (資料⑧)

ライティング教科書の各レッスンのトピック、文法項目に従ったテーマを与えてエッセイを定期的にかかせた。ALT が書くモデルエッセイを参考に生徒は下書きを書き、ALT に文法ミスを添削してもらう。生徒はミスを直してリライトし、再度提出する。教員は内容と表現力に焦点を当ててリライトされたものを評価し、返却と共に優れたものを印刷して全員配布した。クラスメートの書いたものを共有することで、生徒は新たな表現を発見し、活用していた。

(2) 英語 I・英語 II・リーディングにおけるエッセイ (資料⑥⑦)

レッスンの内容によって、サマリーを書かせたり、賛否の意見、ストーリーの続きなどを書かせたりした。グループワークを活用し、各自の意見を交換し、共有することで、より完成度が高まることを目指した。

6 成果と今後に向けて

入学時の学力診断テストで、他学年より英語の力が心配された学年であったが、3年間の取り組みを通して、英語の基本的な語順が身につけ、また狙いとしている意味での「読解力」「表現力」を伸ばすことの重要性を生徒たちが認識できるようになった。

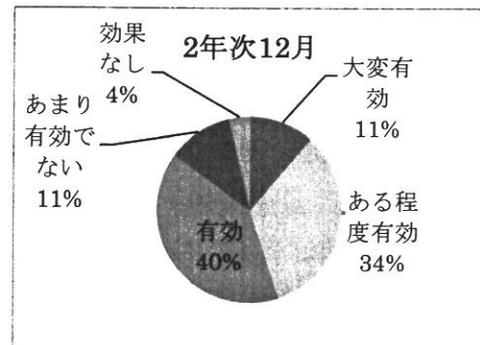
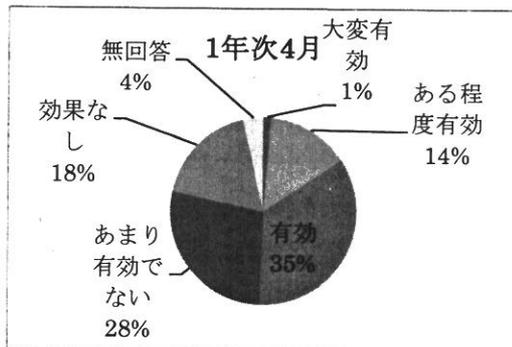
(1) ラウンド制指導法

1) 読解速度の向上

音読活動を豊富に取り入れたことにより、4月当初と比べ、1年生終了時にはすでに英語を音読するペースがどの学力層においてもかなり速くなっているのが見て取れたことから、英語の意味処理速度は向上したと考えられる。

アンケートにおいても有効の認識が1年次4月の合計42名(50%)から、2年次12月の合計68名(85%)へと増加しており、音読によって、英語を習得できたことを生徒が実感していることが分かる。

質問：学習した文章を何度も音読する。

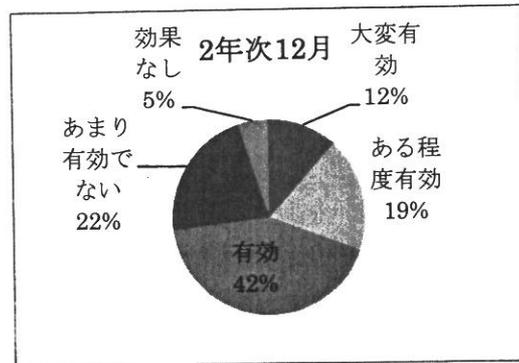
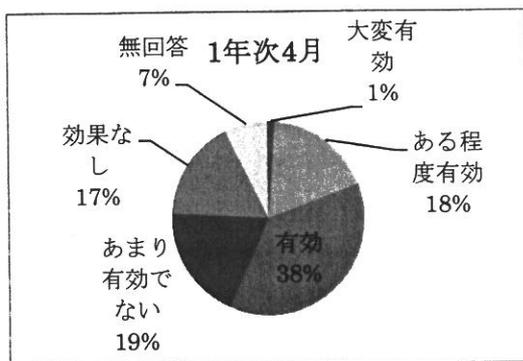


2) 知識を活用した表現力・情報の取捨選択能力

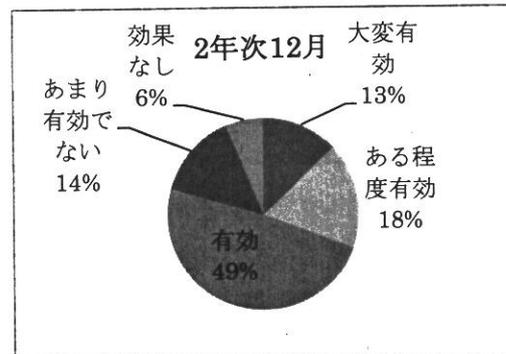
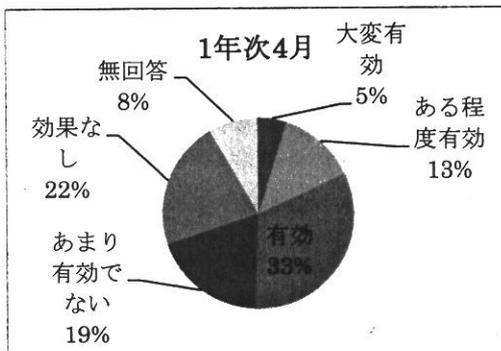
指導による変化として、質問に対して和訳を言うだけの回答ではなく、要点を絞った形で答えられるようになった。

継続的な実施により、暗記した知識を活用することが必要とされる要約活動で、顕著な変化がみられた。1年次では、ほとんど本文の抜き出しになっていたり、枝葉の部分まで書いてしまい要約といっても情報量が多すぎたりするものなどが大半であった。2年次後半以降は、必要な情報を取捨選択し、テキスト本文には出てこなかった表現を活用した要約文が書けるようになった。アンケートの結果からは、こういった活動が自分の能力の向上につながると生徒の意識が変化していることが分かる。

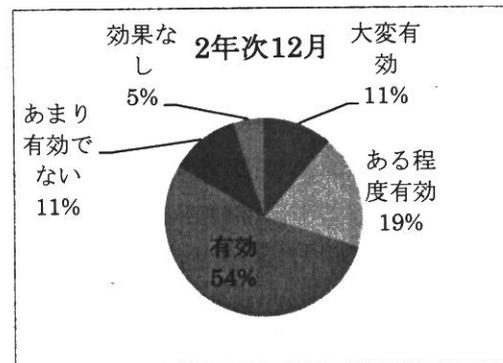
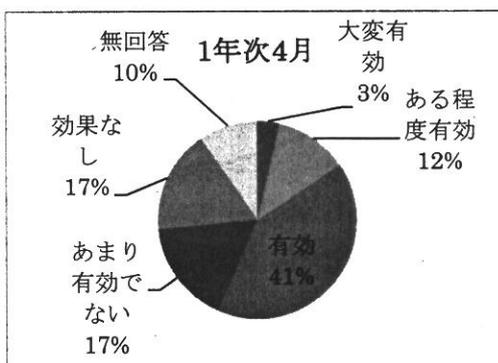
質問：英語の文章を読んで、そのあらすじを自分の言葉で、話すまたは書く。



質問：英語の文章を読んで、自分の意見を話すまたは書く。



質問：図やイラストから読み取った情報を、英語で話すまたは書く。



(2) エッセイ指導

1) 従来型とは異なる側面の評価

普段の問題演習やテストでは力を発揮できない下位層の生徒が、事実だけにとどまらず、気持ちや理由を述べた豊かな文章を書くことができるようになってきている例も多く、生徒の自信につながると同時に、通常の問題演習とは異なる側面の能力を観察・評価することができた。

2) 表現力の伸長（語数の増加・表現語句の充実）

多くの生徒が、テーマに沿い文脈構成の整った自己表現の力を伸ばした。生徒の課題の一例を示す。書く語数が確実に増え、中位層以上の生徒においては、テキストや構文集で学習した慣用表現も活用できるようになっている。また文章全体でも、構成力のあるものへと変化した。

当初と比べ、和英辞書から抜き出してきたままの不自然な表現を使う頻度が減り、

日本語独特の表現を自分の知っている語彙表現で表そうとする変化が見られるようになった。

5月に書いたエッセイの一例 (原文)

During my Golden week's Holidays, I went to a festival at a Fujinomori Shrine with my friends. There were a lot of people and a night stall. I ate chow mein, shaved ice, a sweet potato. They were very delicious. We were talking a long time after we ate them. It was very interesting. I had a good laugh these days. I hope I can go to the festival with my friends next year.

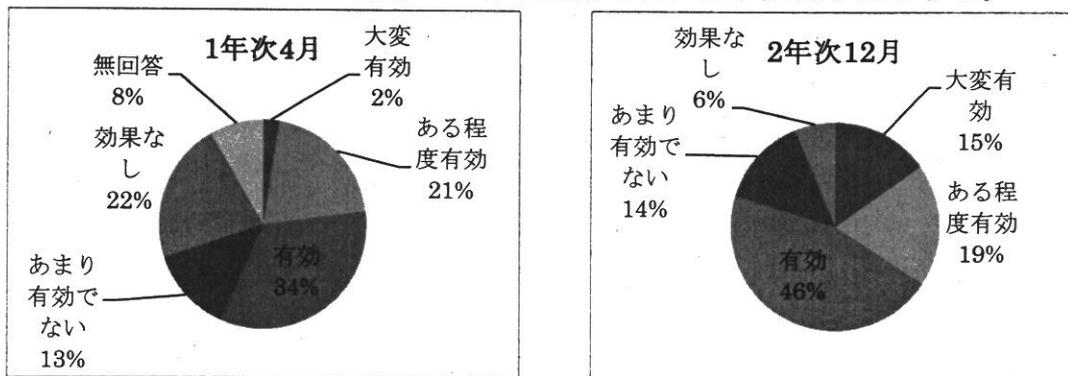
同じ生徒が11月に書いたエッセイ (原文)

One of my most memorable events was on September 9th, 2008. This day was my cousin's birthday. I'll never forget when he was born. When I was 15 years old, my mother called to me from the hospital. She said that her sister gave birth to a baby. I was very surprised and went there in a hurry. There was a very small baby in the hospital. The baby was boy. He looks like a monkey, but he was very cute. He was a crying baby, which has not changed now. Also he eats so much. He is always running toward me and he has bread in his hands. I see it, I laugh. I love him very much. I hope he grows kind in the future.

3) 生徒の認識の変化

アンケートにおいても、有効の認識が1年次4月の合計47名(57%)から、2年次12月の合計63名(80%)へと増加しており、学習効果を生徒が認識していることが分かる。

質問：与えられたテーマで自分のことを英語で書いたり発表したりする。



4) Accuracy の向上

ALT の添削からリライトすることによって、表現される文が正確な文法を使ったものへと変化していった。この点に関しては、下位層の生徒にもっとも大きな変化がみられる。以下に載せる生徒の課題例は、左が下書きで ALT の添削が入っており、右がリライト版である。添削による訂正の量が、5月から11月で減少しているのが顕著にわかる。この活動を通して、ほとんどの生徒が基本的な英語の語順を日本語の語順と区別して習得するができています。

5月に書いたエッセイ (下位層生徒)

Draft 下書き
 I ^{spent} my Golden weeks ^{practicing} Japanese Archery almost every day.
 On May 1st, we went to ^{the} Horyuji International High School in Nara. There are many ^{more} ^{← (?)} targets.
 I ^{had} ^{time at} ^{my} school. It was very hard, but ^{on} May 15th, ^{with} we had ^{to} ^{be} ⁱⁿ ^{the} ^{game}. ^{This is the} ^{last} ^{game} ^{for} ^{the} ^{senior}.
~~Because we practice harder than now.~~
 Because of this, we practiced even harder for this game.

Lesson 4 消書 (AETに正してもらったところを修正して消書)
 I spent my Golden weeks, practicing Japanese Archery almost every day.
 On May 1st, we went to the Horyuji International High School in Nara.
 The school has many ^{more} ^{← (?)} targets.
 On May 2nd, 3rd and 5th, I practiced Japanese Archery at my school. It was very hard, but on May 15th, we had ^a ^{game}. This is the last game for the seniors.
 Because of this we practiced even harder for this game. (8) (2.5)

同じ生徒が11月に書いたエッセイ

Draft 下書き
 One of ^{my} most memorable events is a junior high school graduation. ^{was}
 My junior high school ^{was} in Gumma, so I moved to Kyoto on April 10th of last year.
 My school has eighty students. My school ^{is} the smallest school in my city because everyone ^{is} friendly. I like my ^{class} very much. So I was very sad ^{about} when I left.
 When we finished junior high school, our teacher Mr. Ogino ^{reached} retirement age. Because she must leave school, ^{so} we ^{have} decided ^{to} do a graduation ceremony for her.
 We had time to sing a song in our graduation. ^{at} ^{that} ^{time} we sang "sayonara" for her.
 Every student shed tears. I cried then because ^I ^{would} ^{leave} ^{soon}.
 Now, I live in Kyoto and I enjoy my school life, but I never forget my junior high school graduation.

Lesson 14 Final Draft 消書 (AETに正してもらったところを修正して消書)
 One of my most memorable events is a Junior High School graduation.
 My Junior High School was in Gumma, so I moved to Kyoto on April of last year.
 My school has eighty students in our grade. My school is the smallest school in my city, because everyone is friendly. I like my friends very much. So I was very sad when I left.
 When we finished a Junior High School, our teacher Mr. Ogino reached ^{her} ^{retirement} ^{age}. Because she must leave school, we decided to do a graduation ceremony for her.
 We had time to sing a song in our graduation. ^{at} ^{that} ^{time} we sang for her.
 Every student shed tears. I cried then because I would leave soon.
 Now, I live in Kyoto and I enjoy my school life. But I will never forget my Junior High School graduation.

(3) 多読

1) 多読による読解力と意識の変化

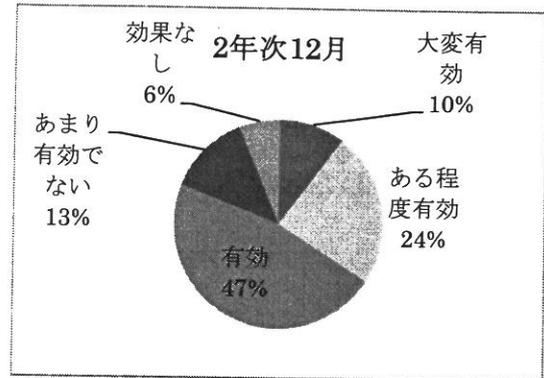
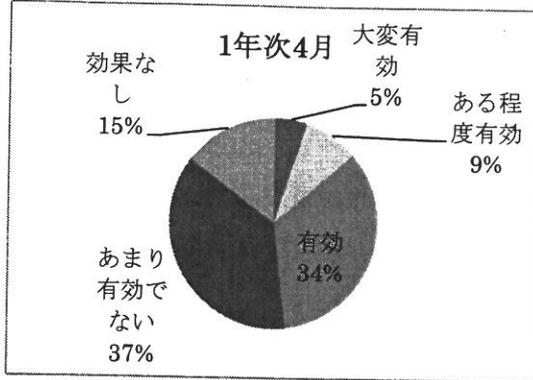
1年次の段階では、理解できるレベルで興味が持てる本を自分で選び、英語の本を1冊以上読みきったことが充実感や自信へつながったことが、生徒の感想から感じられた。読破ページ数を競わせたことにより、1年次で少ない生徒でも50ページ以上、多い生徒では700ページを超えることができた。

2年次には英語の本でも読書としての純粋な楽しみを覚えた生徒も増え、昨年度に比べて読む量が飛躍的に増えた。2年生12月までの時点で500ページ以上読んだ生徒は1クラス中11名で、内7名は、1年次から比べて府立高校実力テストでの偏差値が7ポイント以上伸びた。

2) 生徒の認識の変化

アンケートにも学習効果への認識変化が表れている。有効の認識が1年次4月の合計39名(48%)から、2年次12月の合計64名(81%)へと増加しており、読んだことによって、生徒が学習効果を実感している。

質問：簡単な英語の物語本をたくさん読む



(4) 公開実力テストにおける学力の変化

学力の変化を見るための媒体として、受験集団が3年間変動せず同一である府立高校実力テストを使い、偏差値推移を分析した。以下の偏差値基準で、学力層を分類した。

| 受験時期 | |
|------|-------|
| 第1回 | 1年次4月 |
| 第2回 | 1年次1月 |
| 第3回 | 2年次6月 |
| 第4回 | 2年次1月 |

| 学力層の偏差値区分 | |
|-----------|-------|
| A: | 61以上 |
| B: | 56~60 |
| C: | 51~55 |
| D: | 41~50 |
| E: | 40以下 |

上位層の変化としては、A層の人数は、第1回での9名から、第4回での16名へと7名増加した。また、下位層の変化としては、D層の平均偏差値が46.1（第1回）から51.6（第4回）に、E層の平均偏差値が37.6（第1回）から49.5（第4回）へと上昇した。これらの点から公開実力テストにも対応できる力を育成できていると言える。

この統計では、2年生進級時に第I類一般系へ移った生徒、逆に2年次より第I類一般系から第I類文系・理系に入った生徒は対象者から省き、合計75名で分析を行った。

(5) 今後に向けて

多読指導については、他のクラスや学年でも活用されていたので、今後さらにこの指導が広がり、大きな学習効果を実証できることを願いたい。

ラウンド制指導については、本プロジェクト担当の教員は開発者の鈴木寿一教授とともに研究会や学会で発表する機会があり、他校・他府県の教員と実践や効果、改善点を共有することができた。また担当教員は他クラスにおいてもこの指導を活用した授業展開を行い、効果を実感することができたが、手順や教材準備が多いこともあり、校内の英語科全体において、すべてを還元し十分に共有するまでには至ることができなかった。すべての要素を取り込まないとしても、そのいずれかの要素を、それぞれの教員が必要に応じて取舍選択し活用することができれば、より多様な授業が展開され、新たな学習効果が生まれることが期待できる。今後そういったことを目指して、校内へも十分に還元し、さらに効果的な指導を多くの教員と模索したい。

8 参照文献・HP

- ① 文部科学省 HP PISA (OECD 生徒の学習到達度調査) 2003 年度調査
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/04120101.htm
文部科学省 HP OECD 生徒の学習到達度調査～2006 年調査国際結果の要約
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/sonota/071205/001.pdf#search='2006 PISA'
- ② 文部科学省 HP 読解力向上プログラム
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryu/05122201/014/005.htm
- ③ 文部科学省 HP 学習指導要領関連資料
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/news/081223/014.pdf
- ④ 鈴木寿一. (2008). コミュニケーションのための基礎力と入試に対応できる英語力を育成するための効果的な指導法—ラウンド制指導法—
Ohtagaki, Masayoshi & Ohmori, Takayoshi. (1991). The advantage of “Progressive” reading activities using sense go up for Japanese English learners : an experimental study. *Annual Review of English Language Education in Japan*, Vol.2, pp.83-92 全国英語教育学会.
- ⑤ 鈴木寿一. (1991). 「音声を用いた速読指導法の有効性に関する実証的研究」『英語教育研究』第 14 号, pp.86-91, 日本英語教育学会関西支部.
- ⑥ 諏訪郁子. (2003). 「An empirical study of listening: PSU を構成する音節数の違いが聴解に与える影響」『第 43 回外国語教育メディア学会全国研究大会発表論文集』pp.77-80, 外国語教育メディア学会.
- ⑦ Suwa, Ikuko. (2004). An empirical study on appropriate length of pauses for Japanese EFL learners' listening comprehension. Unpublished Master's Thesis, Kyoto University of Education.
- ⑧ 鈴木寿一・澤武潤子・鈴木理恵・高田哲朗. (2003). 「ポーズと教材の繰り返し提示が聴解度に及ぼす影響」『第 43 回外国語教育メディア学会全国研究大会発表論文集』pp.81-84, 外国語教育メディア学会.
- ⑨ 鈴木寿一. 未発表
- ⑩ 鈴木寿一. (1998). 「音声教材中のポーズがリーディング・スピードに及ぼす影響に関する実証的研究」ことばの科学研究会 (編)『ことばの心理と学習』pp.311-326, 金星堂
Suzuki, Juichi. (1991). An empirical study on a remedial approach to the development of listening fluency: the effective of pausing on students' listening comprehension ability. *Language Laboratory*, 第 28 号, pp.31-46, 語学ラボラトリー学会
Suzuki, Juichi. (1999). An effective method for developing students' listening comprehension ability and their reading speed: an empirical study on the effectiveness of pauses in the listening materials. In Jungheim, N. O. & Robinson, P. (eds.) *Pragmatics and Pedagogy: Proceedings of the 3rd pacific Second Language Research Forum, Vol.2*, pp.277-290, PacSLRF
Suzuki, Juichi. (2001). A reappraisal of the effectiveness of pausing on the development of students' listening comprehension ability and reading speed. In White, J. et al. (eds.) *FLEAT IV: Proceedings of the 4th International Conference on Foreign Language Education and Technology*, pp.562-570, FLEAT
- ⑪ 鈴木寿一. (1998). 「音読指導再評価—音読指導に関する実証的研究」『LLA 関西支部研究収録』第 7 号, pp.13-28, 語学ラボラトリー学会関西支部.
- ⑫ 橋堂弘文. (1993). 「Reading Aloud の効果を指導実験により検証する」『英語教育研究』第 16 号, pp.136-143, 日本英語教育学会関西支部.
- ⑬ 鈴木寿一. (1998). 「音読指導再評価—音読指導に関する実証的研究」『LLA 関西支部研究収録』第 7 号, pp.13-28, 語学ラボラトリー学会関西支部.

9 資料

① レッスン全体把握プリント (パラグラフのタイトル選択タスク)

Lesson7 *In Search of Light*

Round1 概要をつかもう

① Listen& Read Part ごとに聴きながら読み、書かれていた内容に☑を入れなさい。

② Listen& Read paragraph ごとに聴き、paragraph の順番を答えなさい。

例) part1 の 1st paragraph なら (P1-①) と (-) に書く。

| | | | |
|---|--------------------------|-------|-------------------|
| ア | <input type="checkbox"/> | (-) | ゴーギャンとの生活とその後のゴッホ |
| イ | <input type="checkbox"/> | (-) | ゴッホとゴーギャンの最期 |
| ウ | <input type="checkbox"/> | (-) | ゴッホとテオの最期 |
| エ | <input type="checkbox"/> | (-) | ゴッホと弟テオの確執 |
| オ | <input type="checkbox"/> | (-) | ゴッホと弟テオの強い絆 |
| カ | <input type="checkbox"/> | (-) | ゴッホの経歴 |
| キ | <input type="checkbox"/> | (-) | ゴッホの日本滞在 |
| ク | <input type="checkbox"/> | (-) | テオの経歴 |
| ケ | <input type="checkbox"/> | (-) | 世界で評価されるゴッホの作品の魅力 |
| コ | <input type="checkbox"/> | (-) | 日本への憧れと「黄色い家」 |
| サ | <input type="checkbox"/> | (-) | 浮世絵との出会いとその収集 |
| シ | <input type="checkbox"/> | (-) | 浮世絵と日本への憧れ |

WORDS & PHRASES

| No | Part | E→J チェック | English | Japanese | J→E チェック |
|----|------|-------------|--------------------|-------------|-------------|
| 1 | P1 | | in search of light | 光を捜して | |
| 2 | P1 | | reject | 拒絶する | |
| 3 | P1 | | genius | 天才 | |
| 4 | P1 | | popularity | 人気 | |
| 5 | P2 | | shadow | 陰影 | |
| 6 | P2 | | bright | 明るい | |
| 7 | P2 | | encounter | 出会い | |
| 8 | P2 | | Japanese prints | 日本の版画 (浮世絵) | |
| 9 | P3 | | found (-founded) | 基づく | |
| 10 | P3 | | utopia | ユートピア (理想郷) | |
| 11 | P3 | | establish | 作る (設立する) | |
| 12 | P3 | | cooperative | 共同住宅 | |
| 13 | P4 | | tension | 緊張 | |
| 14 | P4 | | personality | 個性 | |
| 15 | P4 | | unstable | 不安定な | |
| 16 | P4 | | borrow | 借りる | |

Vincent van Gogh 「ヴァンセント・ヴァン・ゴッホ」 Theodorus 「セドラス」 Theo 「テオ」 the Netherland 「オランダ」 Belgium 「ベルギー」
 Japonism 「19世紀、フランスで浮世絵が紹介されたことにより起こった日本趣味」 Antwerp 「アントワープ (ベルギーの地名)」
 Hokusai 「葛飾北斎 (浮世絵師)」 Hiroshige 「歌川広重 (浮世絵師)」 Arles 「アル (フランスの地名)」 Emile Bernard 「エミール・ベルナル (画家)」 Paul Gauguin 「ポール・ゴーギャン (画家)」 Auvers 「オーヴェル (フランスの地名)」

出典：数研出版 “Polestar English Course II” Lesson7 “In Search of Light”

② 各パート学習プリント (要点理解プリント)

Lesson7 In Search of Light

1st paragraph

2nd paragraph

I Many people know that Vincent van Gogh sold only one painting in his whole life. Throughout his life, he saw his work rejected by the public. He was always poor; but his brother Theodorus (Theo), an art dealer, supported him, by sending him money and artist's materials. Theo believed that his brother was a genius who would one day win public recognition.

③ Today, people all over the world love van Gogh's works. Their great popularity makes them among the world's most expensive paintings. A century after Vincent's death, a Japanese company paid almost forty million dollars for his painting known as *Sunflowers*.

What makes van Gogh's paintings so special? They are full of life and energy. They explode with color. You really need to see them at an art gallery to appreciate them. The thick layers of paint and dynamic brushstrokes make you want to reach out and touch them.

Vincent van Gogh 「ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ」 Theodorus 「セオドア」 Theo 「テオ」
WORDS & PHRASES

| No | E→J 英語 | English | Japanese | J→E 和語 |
|----|-----------|-------------------|--------------|-----------|
| 1 | | in his whole life | 生涯で(生きている間に) | |
| 2 | | throughout | ～を通して | |

| | | |
|----|---------------------|-------------|
| 3 | reject | 拒絶する |
| 4 | poor | |
| 5 | art dealer | 画廊 |
| 6 | material | 画材 |
| 7 | genius | 天才 |
| 8 | recognition | 評価 |
| 9 | work | |
| 10 | popularity | |
| 11 | are full of ~ | |
| 12 | energy | |
| 13 | explode with ~ | ～が炸裂する |
| 14 | gallery | 美術館 |
| 15 | appreciate | 味わう(鑑賞する) |
| 16 | thick layer | 分厚い層 |
| 17 | dynamic brushstroke | ダイナミックな筆づかい |
| 18 | reach out | 手を伸ばす |

Round2 paragraphの要点をつかもう

1st paragraph

要点① 生前、ゴッホの作品はどのように評価されていましたか。

要点② 彼の生活はどのように、テオ(セオドア)は彼にどんなことをしていましたか。

2nd paragraph / the first half

要点① 現在世界でゴッホの作品はどのように評価されていますか。

要点② その例として、どのようなことが挙げられていますか。

2nd paragraph / the latter half

要点③ ゴッホの作品を特別なものにしてているものは何なのでしょう。

要点④ 実際に見れば、作品のどんな所が、絵に触れてみたいと思わせますか。

③ 対話形式レッスンの内容学習プリント

Function3 **What do you think of cloning your pet?**

Comprehension

全体をとらえる質問 コウジとキャロルは、それぞれクローン技術に賛成ですか、反対ですか。

コウジ _____ キャロル _____

要点質問

要点① 二人の友達のエミリーにどんなことが起き、彼女はどんなことを思っているのですか。

要点② エミリーの件に関して、キャロルとコウジはどのような意見・結論を述べていますか。二人は同じ意見ですか。

| 意見 | 理由・証拠 | 結論 |
|----|-------|----|
| | | |

要点③ クローン技術に関して、二人の意見を箇条書きでまとめよう。二人はそれぞれいくつ意見を述べていますか。

| 人物 | 賛成／反対 | 意見 | 理由 |
|------|-------|------------------------|----|
| キャロル | | | |
| コウジ | | クローン技術を利用する可能性はいろいろある。 | |
| | | | |

出典：数研出版 “Polestar English Course II”

Function3 “What do you think of cloning your pet?”

Lesson3 Q&A Class No. _____ Name _____

2分以内で読み終え、読み終わったら、授業中も一言でもよいので、授業の感想や意見の記入を書き込んでください。
授業中に読んだ本やマンガ、見たい映画は...◎ ヒントで書いたら...○ 見て書いたら...△ 分かるかな...×

Part1
Read & Look Up 読み終え、読み終わったら、授業中も一言でもよいので、授業の感想や意見の記入を書き込んでください。

1. What was the news coming from the radio about? 何に關するニュースがラジオから流れてきた?
2. Where were space capsules landing? 宇宙船はどこに着陸した?
3. Why did housewives cover themselves with wet towels? なぜ、主婦達は濡れたタオルをかぶったの?
4. How was New York? ニューヨークはどんな様子でしたか?
5. What condition was in America? アメリカ中がどんな状態でしたか?
6. Was the President's speech of any help to stop the panic? 大統領の演説は、パニックを止める役に立ちましたか。

Part2
Read & Look Up 読み終え、読み終わったら、授業中も一言でもよいので、授業の感想や意見の記入を書き込んでください。

1. What had people been fooled by? 人々は何にだまされたのですか。
2. What did most people think of the things they were listening to on the radio? ほとんどの人は、ラジオで聞いていたことをなんだと思いましたか。
3. Who had tricked America? 誰がアメリカをだましましたか。
4. What was the radio program based on? ラジオ番組は何に基づいていましたか。
5. What did Orson Welles show? オーソン・ウェルズは何を証明しましたか。

Part3
Read & Look Up 読み終え、読み終わったら、授業中も一言でもよいので、授業の感想や意見の記入を書き込んでください。

1. What started at 8 p.m.? 8時に何が始まりましたか?
2. What was the announcement interrupted by? ラジオは何に中断されましたか。
3. What followed the weather report? 何が天気予報の後に続きましたか。
4. What did Orson Welles plan make listeners forget? オーソン・ウェルズの計画は聴者に何を忘れさせましたか。

出典：盛徳堂 “Mainstream Reading Course”
Lesson3 “Men from Mars Attack America”

⑤ 本文英訳プリント

Mainstream Lesson5

英訳にChallenge!

| | |
|---|--|
| <p>①() is the key in a world of () ②where ()() complex networks of friendships, () differences, try to ()(), and () the appearance of (), () would highlight differences. ③In a world of (), () is the key, because a primary () of () status is to tell others ()() (), and taking orders is a marker of ()(). ④Though all humans need ()() and (), women tend to ()() the first and men on the second. ⑤It is ()() their lifeblood ran in different ().</p> | <p>①人と人との結びつきの世界では親密さが稀になる。 ②そこでは一人一人が複雑な交友関係をやりくりし、相違点を最小限にし、合意に達しようと努め、また自分のほうが優れていることを見せないようにするが、それは相違点を目立たせることになるからである。 ③地位を重んじる世界では、自主性が稀になる。 地位を確立する主要な手段は、人にすべきことを伝えることであり、命令を受けることは地位が低いことの目印になるからである。 ④だれにでも親密さと自主性の両方が必要であるが、女性は前者に、男性は後者に重きをおく傾向がある。 ⑤それはまるで(女性と男性とで)血液が違う方向に流れているかのようである。</p> |
| <p>①These differences can give women and men differing () () the same (), () they did in the () of a couple I will call Linda and Josh. ②When Josh's old high-school friend called him at work and announced he'd be in town ()() the following month, Josh () him to stay for the weekend. ③That evening he () Linda that they were going to have a houseguest, and that he and his friend would go out together the first night to ()() () like old times. ④Linda ()(). ⑤She was going to ()() () () the week before, and the Friday night when Josh would be out with his friend would be her first night home. ⑥But () upset her the most was that Josh had made these plans ()() () and () her () them () discussing them with her before giving the invitation.</p> | <p>①この違いのために、女性と男性は同じ状況に対して異なった意見をもつが、リングとジョッシュと呼ぶことにする夫婦の場合もそうであった。 ②ジョッシュの高校時代の旧友が仕事帰りの後に電話をしてきて、翌月に仕事で町に行くと言ったとき、ジョッシュは週末に家に泊まるように誘った。 ③その晩、彼がリングに、泊り客があって、一日目の夜は昔のようにおしゃべりをするために2人で出かけるつもりだと伝えた。 ④リングは動揺した。 ⑤彼女はそれ前の週、仕事で家を離れていて、ジョッシュが友達と出かける金曜日の夜は、彼女が帰ってくる最初の夜にあたるのだった。 ⑥しかし彼女をいちばん動揺させたのは、ジョッシュが招待する前に彼女とそのことを話し合わず、1人で計画を立ててしまったから彼女に知らせたということだった。</p> |
| <p>①Linda () makes plans for a weekend or an evening () first checking with Josh. ②She can't understand () he doesn't show her the same () and () that she shows him. ③But when she (), Josh says, "I can't say to my friend, I have to () my wife () ()!" ④To Josh, checking with his wife means () (), () implies that he is not (), not free to act () (). ⑤It would () him () like a child. ⑥To Linda, checking with her husband () () () () permission. ⑦She () that spouses discuss their plans () () because their lives are (), ⑧so the actions of one have () for the other.</p> | <p>①リングは必ずまずジョッシュと相談してから、週末や夜の予定を立てる。 ②彼女はなぜジョッシュが彼女が彼に示すのと同じくらい親切と思いやりを示さないのかを理解できない。 ③しかし彼女が異議を唱えると、ジョッシュは『妻に許可を求めなければならない』なんて友達には言えない』と言う。 ④ジョッシュにとっては、妻に相談することは許可を求めることを意味し、それは自分に自主性がなく、1人で行動する自由がないことを意味する。 ⑤そうすると、自分が子どもであるような気持ちになるだろう。 ⑥リングにとっては、夫と相談することは許可とは関係がない。 ⑦彼女は夫婦の生活は結びついているのだから、配偶者が互いに計画を話し合っ、 ⑧その結果、一方の行動がもう一方に影響を与えるものだと考えている。</p> |
| <p>⑨Linda doesn't () telling someone, "I have to check with Josh." ⑩In fact, she likes it. ⑪It () her () good to know and show that she ()() () someone, that her life is bound up with someone else's. ⑫Linda ()() because she sensed a failure of () in their (): ⑬Josh didn't care ()() () she cared about him. ⑭And Josh ()() because he felt she was trying to</p> | <p>⑨リングはだれかに「ジョッシュに相談しなければ」と言うのが気にならない。 ⑩それどころか実は、そう言うことが好きなのである。 ⑪だれかと結びついていること、自分の生活がだれかほかの人の生活と深く関わっていることを知り、それを人に示すことよ気分になるのである。 ⑫リングは2人の関係に親密さが欠けていると感じて傷ついた。 ⑬ジョッシュは自分が彼にするほど自分を気遣ってくれなかった。 ⑭一方、ジョッシュは妻が自分のことを支配して、自由を制限し</p> |

出典：増進堂 “Mainstream Reading Course”
 Lesson5 “Intimacy and Independence”

⑥ サマリー作成用ワークシート

Lesson 7 In Search of Light Summary

ゴッホの生涯とその作品について、20文程度の英語にまとめよう。

①生前と没後の人々のゴッホの作品への評価

②ゴッホとテオの関係、ゴッホの略歴 (3つ)

③ゴッホが浮世絵への思いとそれを裏付ける行動 (全部列挙せず簡潔に)・画風の変化

④ゴッホが浮世絵への憧れから日本について思ったことと、そのため取った行動

⑤ゴッホの夢とその現実 (ゴーギャンとの生活)

⑥ゴッホのその後と最終、テオの最後

なるべくテキストを抜き出すのではなく、テキストより簡単に短い英文に直してみよう。
各項目がどんな文になるか、簡潔書きで項目ごとに日本語でまとめ、それを右側で英語に直そう。

①

②

③

④

⑤

⑥

英文には番号は書かず、段落を変えて書く。

Class No Name

⑦ ストーリーの続きを作るワークシート (上部はテキストの物語の解説)

--- Reading Aloud ---

Little Red Riding Hood and the Wolf

by Roald Dahl

◆グリム童話の「赤ずきん」

日本でよく知られる「赤ずきん」の話は、1812年に出版されたグリム兄弟（ドイツの民話収集家・文学者のヤコブ・グリム (1785-1863) とウィルヘルム・グリム (1786-1859)）の「グリム童話集」に収録された「赤ずきん」である。ペロー版の「赤ずきん」がオオカミに食べられたままの寝顔で終わるのに対して、グリムの「赤ずきん」では最後の場面に狩人が登場し、オオカミの腹をハサミで切り裂いて赤ずきんとおばあさんを助け出す。そして助け出された赤ずきんは、おばあさんや狩人と一緒にオオカミのおなかに石を詰め込んでオオカミを殺してしまう。

ペローの話と比べるとハッピーエンドではあるが、グリムの赤ずきんもまた教訓を含んでいる。つまり、オオカミを殺すことはオオカミに罰を与えることになるが、他方で母親のいいつけを破った赤ずきんも危険な目に遭うことによって一時的に罰を与られているのである。読み手に罪と罰の関連を意識させる内容と言える。

Make the story after then.

オオカミが殺されて、おばあさんはどうなったのか？ 赤ずきんちゃんの本性は？

このストーリーの続きを3文以上の英語で作ってみよう。

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

Class No Name _____

◆ダールの赤ずきんのパロディ

これに対して、ダールの「赤ずきん」にはお母さんは出てこない。オオカミが誘惑する場面もない。そして、狩人が登場することもなく、食べられてしまったおばあさんが生き返ることもない。そもそも、赤ずきんが食べられることもないので、赤ずきんが反省する必要はなく、したがって、ペローやグリムの赤ずきんにあった教訓的な要素はない。

ダールの赤ずきんは、「なんてすてきなすばらしく大きな毛皮のコートを着ているんでしょう (what a lovely great big furry coat you have on)」とおそらくは目を輝かせながら、狩人の登場を待たずに自らためらうことなくオオカミを撃ち殺す。彼女は、童話での無邪気でか弱い赤ずきんとはまったくの別人である。したたかでたくましい赤ずきんと、彼女にまさに「身ぐるみをはがれる」オオカミという意外な結末が、まさに意外性とブラックユーモアを持ち味とするダールらしいと言えるだろう。

出典：数研出版 “Polestar English Course II”

Reading Aloud “Little Red Riding Hood and the Wolf”

